

---

# 自殺報道に携わっているメディアの 責任者と記者を対象にしたアンケート調査



一般社団法人インターネットメディア協会

自殺報道を考えるプロジェクト

# 回答者内訳

## < 責任者編 >

テレビ局 : 14 件

TBS テレビ、NHK、フジテレビジョン、中京テレビ放送、テレビ愛媛、RSK、四国放送、あいテレビ、青森テレビ、岩手めんこいテレビ、東北放送、宮城テレビ放送

新聞社 : 7 件

毎日新聞社、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社、岩手日報社、東奥日報、長崎新聞社

ネットメディア : 2 件

ジェイ・キャスト、BuzzFeed Japan News

出版社 : 2 件

光文社、小学館 NEWS ポストセブン

## < 記者編 >

フリーランス : 0 件 / 契約記者 : 1 件 / 社員記者 : 12 件 / 管理職 (デスク以上) : 4 件 / その他 : 0 件



# アンケート結果

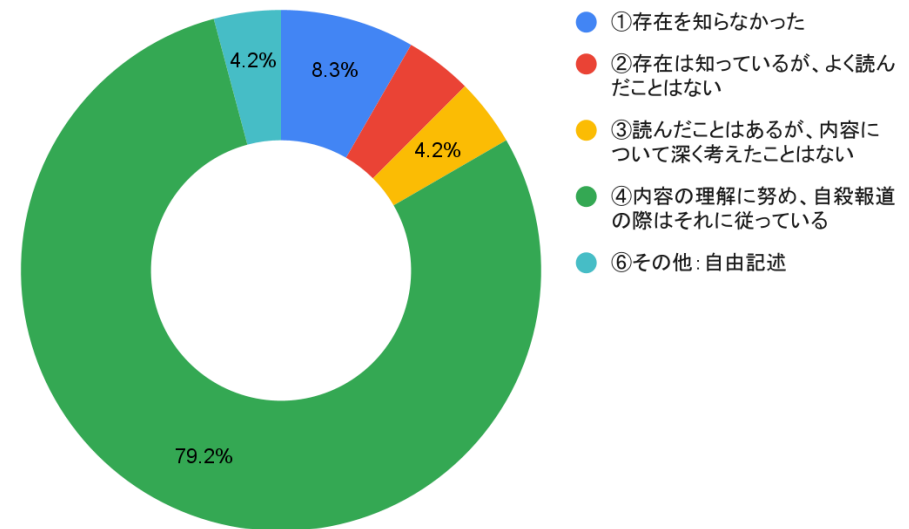
## 【責任者編・設問①】

WHO が作成した自殺報道ガイドラインについてお聞きします。以下の項目の中から1つ選んでください。

1. ガイドラインの存在は、知らなかった：2件
2. ガイドラインの存在は知っているが、よく読んだことはない：1件
3. ガイドラインを読んだことはあるが、内容について深く考えたことはない：1件
4. ガイドラインの内容の理解に努め、自殺報道の際はそれに従っている：19件
5. ガイドラインの内容に問題や課題を感じるため、利用をしていない：0件
6. その他（自由記述）：1件

・ほぼ、「ガイドラインの内容の理解に努め、自殺報道の際はそれに従っている」ですが、WHO 指針が全ての自殺に関する取材や放送をカバーしているものとも言い切れないのではないのでしょうか。

『ガイドラインの内容の理解に努め、自殺報道の際はそれに従っている』  
のが約80%を占めた。(回答数:24件中19件)



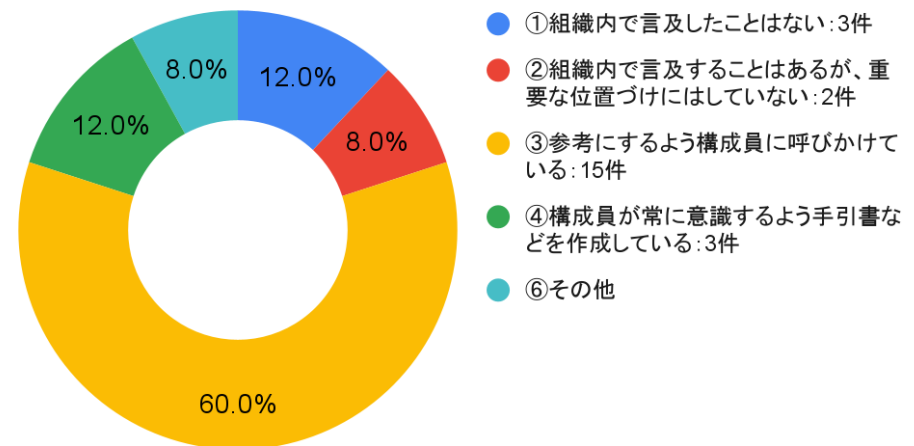
## アンケート結果

### 【責任者編・設問②】

WHO が作成した自殺報道ガイドラインについてお聞きします。所属している組織内ではガイドラインをどのように扱っていますか。

1. ガイドラインについて、組織内で言及したことはない：3件
2. ガイドラインについて、組織内で言及することはあるが、重要な位置づけにはしていない：2件
3. ガイドラインについて、参考にするよう構成員に呼びかけている：15件
4. ガイドラインについて、構成員が常に意識するよう手引書などを作成している：3件
5. ガイドラインについて、問題や課題があると感じており、それに従った指導はしていない：0件
6. その他（自由記述）：2件
  - ・ガイドラインと社内マニュアルを踏まえるよう周知している
  - ・ガイドラインに反したメディアの報道に注意を促す記事を出している

約 80%はガイドラインを参考にするよう呼びかけたり、手引書などを作成している。（回答数：25件中 18件）



# アンケート結果

## 【責任者編・設問③】

自殺報道について記者研修を実施していますか。以下の項目の中から1つ選んでください。

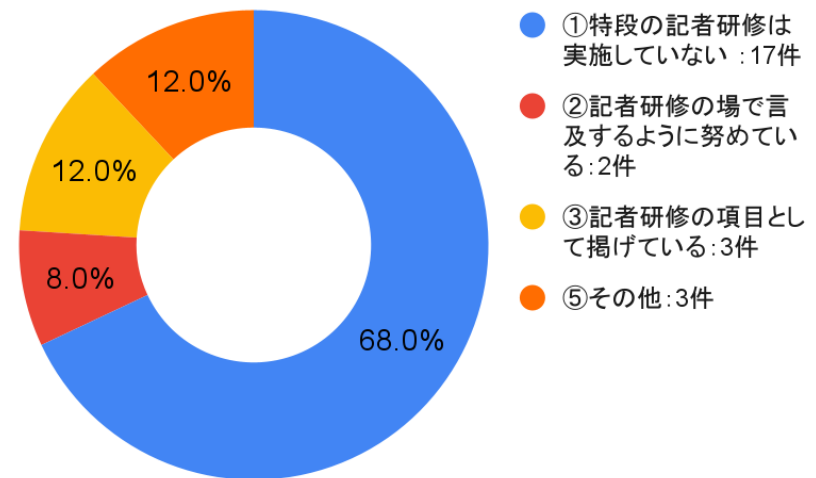
1. 自殺報道について、特段の記者研修は実施していない：17件
2. 自殺報道について、記者研修の場で言及するように努めている：2件
3. 自殺報道について、記者研修の項目として掲げている：3件
4. 自殺報道について、特別の記者研修を実施している：0件
5. その他：3件

・すでに一定レベルの意識が共有されている

・研修という形ではないが、著名人の死去で自殺が疑われる場合は、ニュース番組の制作者全員に「自殺」の文字をタイトルなどに使わないよう周知するなど、事あるごとに具体的な対応方法を全体で共有している。また、そうしたニュースを扱う場合には「死去した」という情報だけでなく、厚生労働省が示している自殺防止相談窓口の紹介などを必ずセットで伝えている。

・実際の自殺報道の例があるたびに注意を呼びかけている

「特段の記者研修は実施していない」が約70%を占めた。(回答数：25件中17件)



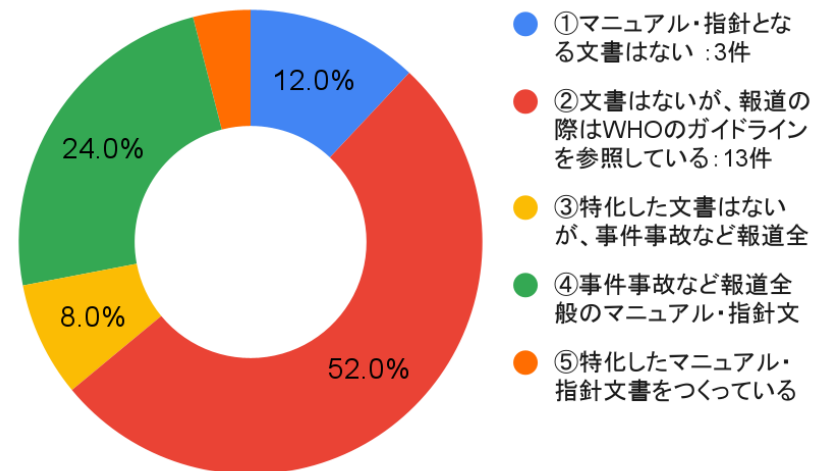
# アンケート結果

## 【責任者編・設問④】

### 自殺報道のマニュアル・指針文書についてお聞きします。

1. マニュアル・指針となる文書はない：3件
2. マニュアル・指針となる文書はないが、報道の際は、WHOのガイドラインを参照している：13件
3. 特化したマニュアル・指針文書はないが、事件事故など報道全般のマニュアル・指針文書の中で言及している：2件
4. 事件事故など報道全般のマニュアル・指針文書の中で、独立した章や項目を設けて言及している：6件
5. 特化したマニュアル・指針文書をつくっている：1件
6. その他：0件

約70%は自殺報道のマニュアル・指針となる文書がなく、約30%は報道全般のマニュアル・指示文書の中で言及している。特化したマニュアル・指示文書を作っているのは1社であった。(回答数：25)



# アンケート結果

## 【責任者編⑤・記者編②】

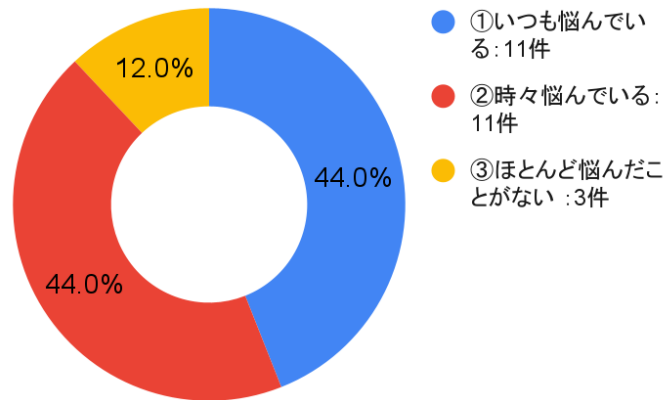
<責任者編> 編集責任者として、自殺を報道する際に、悩んだことはありますか。

<記者編> メディアとして自殺を報道する際に、悩んだことがありますか。

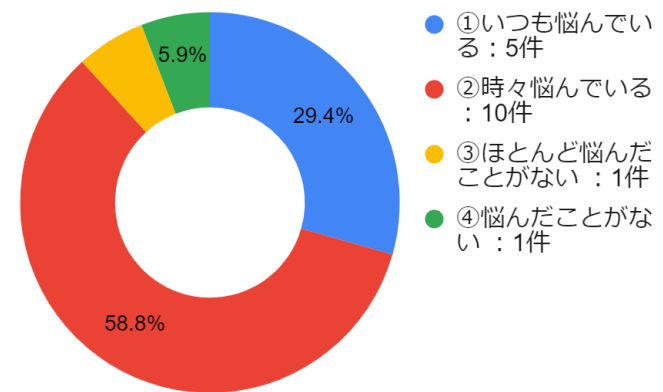
- ①いつも悩んでいる (責任者) 11 (記者) 5
- ②時々悩んでいる (責任者) 11 (記者) 10
- ③ほとんど悩んだことがない (責任者) 3 (記者) 1
- ④悩んだことがない (責任者) 0 (記者) 1

責任者編・記者編ともに、「いつも悩んでいる・時々悩んでいる」が約90%を占めた

<責任者編>



<記者編>



# アンケート結果

## 【責任者編⑤ -A1・記者編②－ A1】

「いつも悩んでいる」「時々悩んでいる」と回答された方にお聞きします。どんな理由で悩んでいますか。

以下の項目の中から理由を1つ選んでください。

- ①新たな自殺を誘発する恐れがあるから（責任者）9（記者）4
- ②遺族の心を傷つける恐れがあるから（責任者）6（記者）6
- ③ネットなどに過剰な拡散や誹謗中傷、虚偽情報・誤情報などを引き起こす恐れがあるから（責任者）4（記者）3
- ④その他（責任者）3（記者）2

<責任者編>

・どこまで配慮すべきか線引きがない。過剰に自重していないか、読者の受け止め方はどうか、配慮・忖度するなら、そもそも大きく扱う必要があるのか、など報道のスタンスに悩む。また、紙面では配慮してもデジタルでは関連記事を大量に配信している矛盾もある。

・常に正解がない

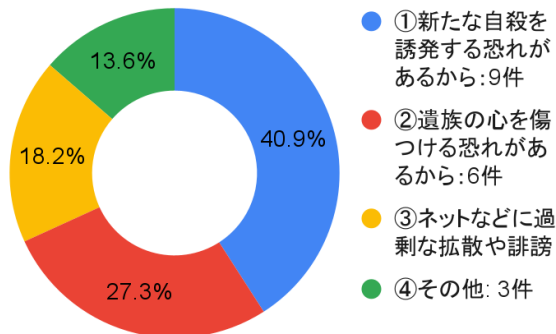
・対象者が著名であればあるほど「死去」は大きなニュースと捉えるが、初期段階から自殺と断定される、あるいは強く推認されるだけの情報はまずないため、事故なのか自殺なのか定かでない段階で、ニュースのオーダーをどの程度上げ下げするか、どこまで抑制的な扱いにとどめるべきか、判断が難しい。

<記者編>

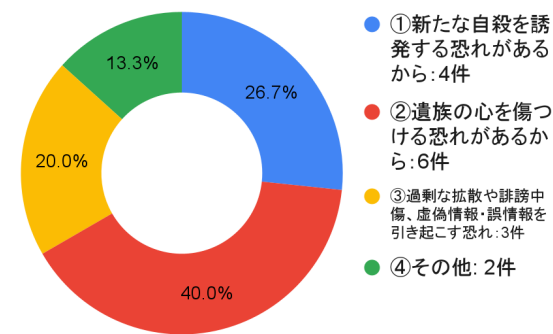
・自殺であることが明らかな場合は、必要最小限の報道に留意する等の方針を徹底できるが、発生当初は事件・事故、自殺かを判断する材料に乏しく、自殺としての対応を行うべきかどうかを判断するのが難しいため。

報道によって、人（自殺に悩む人、友人、遺族など）を傷つける恐れがあるから

<責任者編>



<記者編>





# アンケート結果

## 【責任者編⑤ -A2・記者編②－ A2】

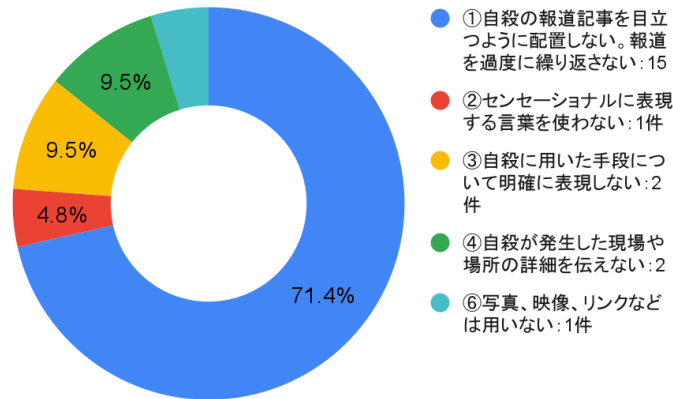
「いつも悩んでいる」「時々悩んでいる」と回答された方にお聞きします。WHO ガイドラインは報道で「やってはいけないこと」を6項目挙げています。その中で、報道する際に最も順守が難しいことは何でしょうか。

- ①自殺の報道記事を目立つように配置しない。報道を過度に繰り返さない（責任者）15（記者）3
- ②センセーショナルに表現する言葉、よくある普通のこととみなす言葉を使わない（責任者）1（記者）3
- ③自殺に用いた手段について明確に表現しない（責任者）2（記者）2
- ④自殺が発生した現場や場所の詳細を伝えない（責任者）2（記者）4
- ⑤センセーショナルな見出しを使わない（責任者）0（記者）1
- ⑥写真、ビデオ映像、デジタルメディアへのリンクなどは用いない（責任者）1（記者）0
- ⑦その他（責任者）0（記者）2

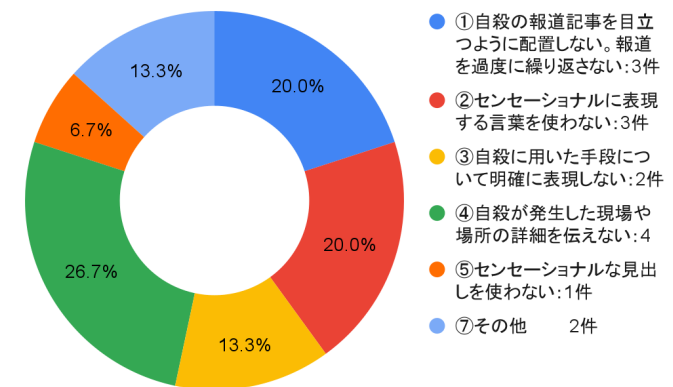
<記者編>

- ・自殺であることが明確な場合は悩むことは無いが、情報が少ない段階の対応が難しいこと
- ・相談窓口の連絡先を必ず紹介するようにしているが、そのことによって「自殺」だと明らかにしてしまっていること

<責任者編>



<記者編>



## アンケート結果

---

### 【責任者編⑤ -B1・記者編② -B1】

「ほとんど悩んだことがない」「悩んだことがない」と回答された方にお聞きします。その理由をお聞かせください。

- ・自殺は、通常の事件事故のひとつにすぎないと考えるから（責任者）0（記者）0
- ・組織で定めたマニュアル・指針に則って判断しているから（責任者）0（記者）1
- ・一次情報を速やかに伝えることがメディアの責務であり、報道の影響を過剰に考える必要はないから（責任者）1（記者）1
- ・一次情報は発信せず、他メディアの報道を転電しているため、一義的な責任を負う立場にないから（責任者）0（記者）0
- ・その他（責任者）2（記者）0

<責任者編>

- ・自殺を報道することがあまりないから
- ・一次情報を発信する立場ではなく、かつメディアのあり方を考える形での報道を主務の一つとしているため、発生をどう報じるかというかたちでの悩みはあまり発生しない

# アンケート結果

## 【責任者編⑥・記者編④】

2020～2022年は、有名俳優・タレントの自殺が相次ぎました。報道の後、自殺の件数が急増していますが、報道が影響したと思いますか。

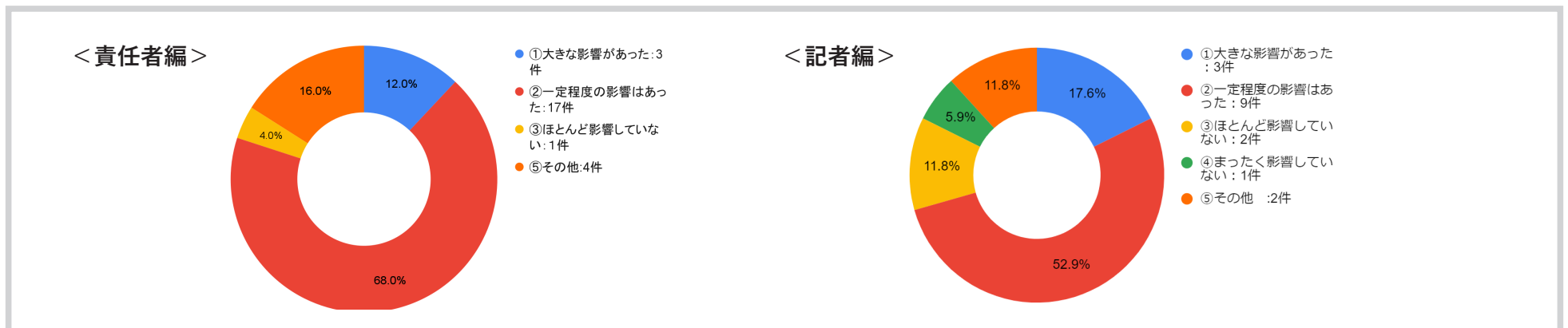
- ①大きな影響があった（責任者）3（記者）3
- ②一定程度の影響はあった（責任者）17（記者）9
- ③ほとんど影響していない（責任者）1（記者）2
- ④まったく影響していない（責任者）0（記者）1
- ⑤その他（責任者）4（記者）2

<責任者編>

- ・データを尊重しています。さらに、報道が原因なのか、そこから派生するSNSが原因なのか、外的要因が殆どないのか、より緻密な調査を待ちたいです。
- ・わからない
- ・遺族や親類・職場や学校・友人知人などを対象にした、専門機関による詳しい調査の結果や知見が示されない限り、因果関係について憶測で論じるのは避けたい。
- ・現時点では判断できない。

<記者編>

- ・影響があるような気もするが、正直わからない
- ・著名人の自殺報道が不用意になされると自殺が増加することは広く認められた現象だと考えているが、一方で2020年～2022年という具体的な期間における、自殺と報道との兼ね合いは分析が難しく、コロナ禍における社会的不安、経済状況等の影響も勘案する必要がある。このため、実際にどの程度、影響があったかどうかについてはより慎重な検討が必要と考える。一方で重度の鬱等により自殺念慮のある方々にとっては『自殺』という単語が目につく、もしくは誰かが自殺したのではないかと推測するだけでもきっかけとなる虞があり、報道の有無、形式にかかわらず、一定の影響を与える可能性があると思われる



# アンケート結果

## 【責任者編⑥ -A1・記者編④ -A1】

「大きな影響があった」「一定程度の影響はあった」と回答された方にお聞きします。なぜ影響があったと考えますか。

- ①センセーショナルな報道になりがちだから 6 4
- ②報道が繰り返され、結果として膨大な報道量になるから 11 6
- ③手口や遺書など詳細に報道されてしまうから 0 0
- ④その他 3 2

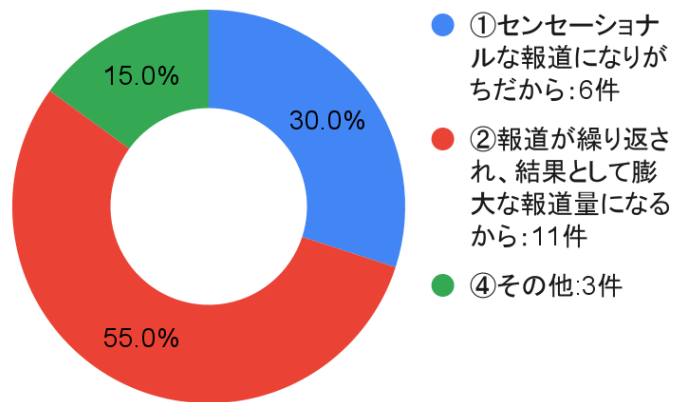
### <責任者編>

- ・報道する側が配慮し、自殺とは表現していなくても読者・ユーザーが自死と想像する。やはり著名人がゆえのインパクトの大きさかと。
- ・著名人にはファンも多く、亡くなった方の心情に少なからずリンクしてしまう人はいるから
- ・報道を受けて誇張したまとめサイトやSNSを含めると、上記いずれも当てはまると思う。

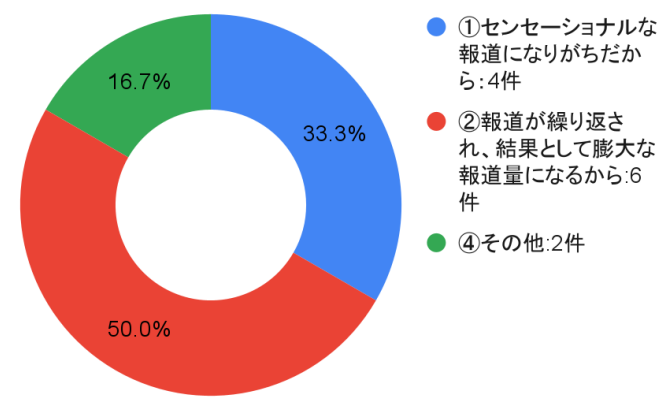
### <記者編>

- ・自死された方を美化してしまいがちで自殺が良いことのように思ってしまうのでは
- ・若い女優、俳優、歌手、アーティストなどカリスマ性がある人は共感を得やすいから

### <責任者編>



### <記者編>



## アンケート結果

---

### 【責任者編⑥ -B1・記者編④ -B1】

「ほとんど影響していない」「まったく影響していない」と回答された方にお聞きします。  
なぜ影響していないと考えますか。

- ①著名人の自殺が、自殺を考えている人の希死念慮を高めることはあっても、報道とは別の問題であると考えられるから （責任者）1 （記者）2
- ②著名人の自殺は、ファンの後追い自殺を誘発するリスクを高めることがあっても、報道とは別の問題であると考えられるから （責任者）0 （記者）0
- ③そもそも報道と自殺の増加を関連づける実証的な根拠はないから （責任者）0 （記者）1
- ④その他 （責任者）0 （記者）0

# アンケート結果

## 【責任者編⑦・記者編⑤】

自殺報道全般の感想についてお聞きします。以下の項目から1つ選んでください。

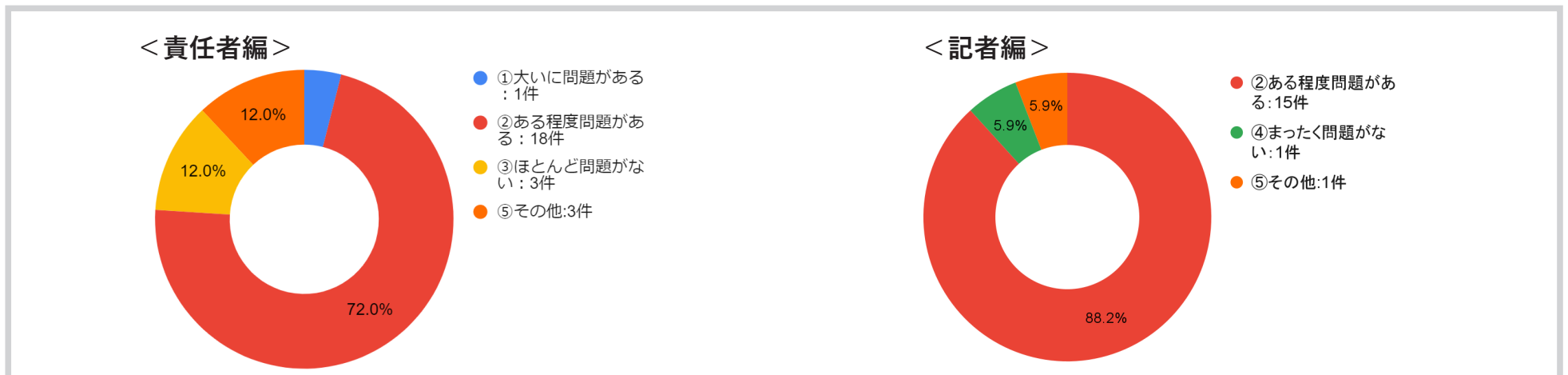
- ①大いに問題がある（責任者）1（記者）0
- ②ある程度問題がある（責任者）18（記者）15
- ③ほとんど問題がない（責任者）3（記者）0
- ④まったく問題がない（責任者）0（記者）1
- ⑤その他（責任者）3（記者）1

<責任者編>

- ・問題がある場合もあれば、ない場合もある
- ・メディア全体を一括りにして問題の有無を論ずるのはいかがかと思うが、ネットメディアやSNS等を通じて、憶測に基づく書き込みや配慮のない拡散が行われ、それがガイドラインを順守している報道機関の意図や想像を越えた社会の反応を引き起こすケースがあるように思われる。報道の自由と同様、言論・思想の自由も尊重されるべきだが、情報の受信者が再発信・再利用する際の意識を高める啓蒙啓発や、行き過ぎた発信に一定の歯止めをかけるような仕組み作りが必要ではないか。
- ・問題がないともいえないが、問題があるともいえない

<記者編>

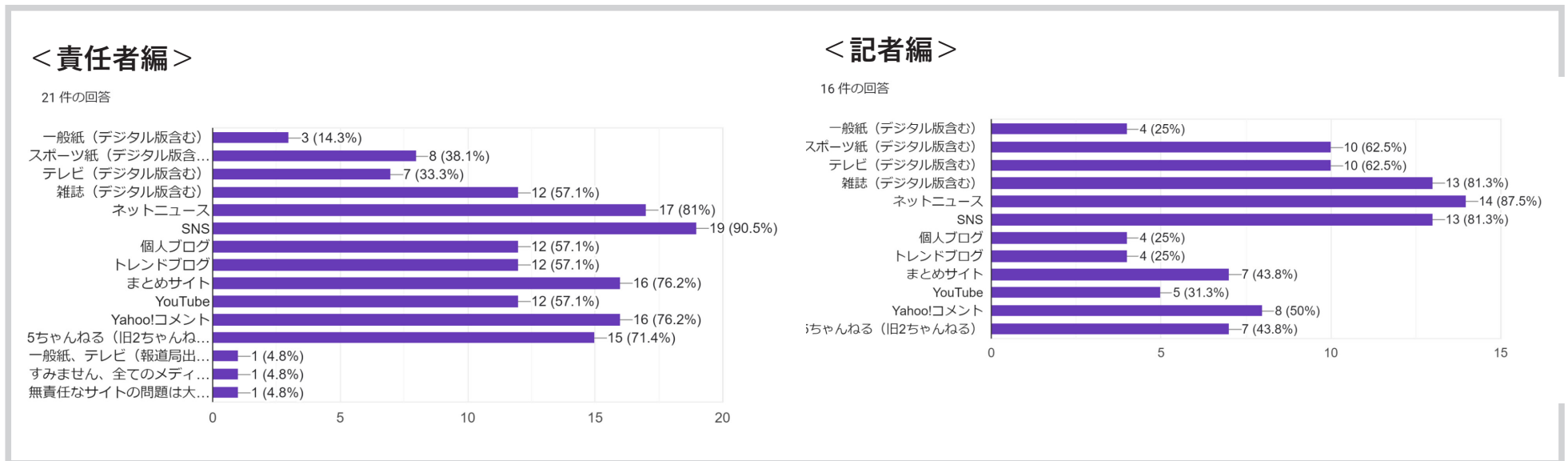
- ・特定のメディアに問題があるとは考えていないが、全体的に見ると自殺報道に対しての意識はまだまだ改善する余地があると感じている。（ある程度問題があるに近い意見）



# アンケート結果

## 【責任者編⑦ -A1・記者編⑤ -A1】

「大いに問題がある」「ある程度問題がある」と回答された方にお聞きします。具体的にどのメディアに問題があると思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。



その他

< 責任者編 >

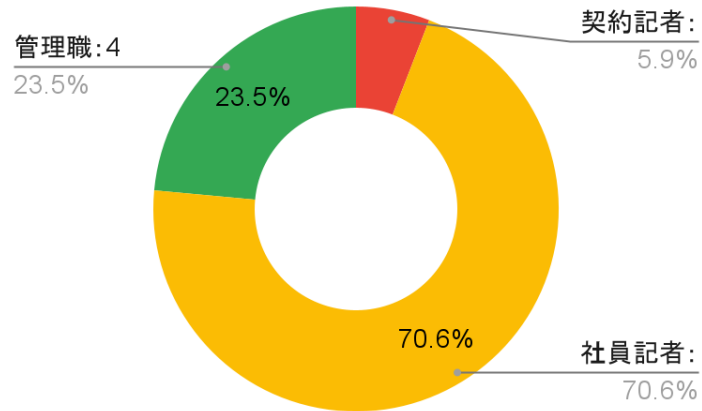
- ・無責任なサイトの問題は大きいと思うが、情報をコントロールしているメディアでも、見る人の受け止め方によっては問題があるといえる。
- ・一般紙、テレビ（報道局出稿）に関しては以前のようにガイドラインを無視した報道は減っていると思うが、こうした報道を思い切り膨らませたトレンドブログやまとめサイト、その SNS 群や個人ユーチューバーが被害の主犯となっている実態が生まれていると感じている。
- ・すみません、全てのメディアで大なり小なり至らざるところがあると考えています。

# アンケート結果

## 【記者編①】

メディアにおけるあなたの立場についてお聞きします。以下の項目から1つ選んでください。

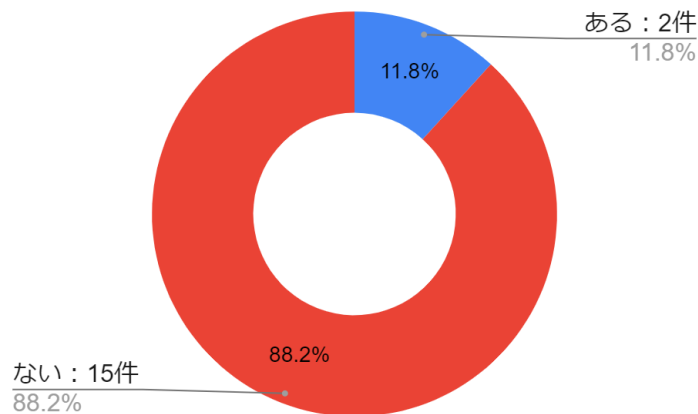
1. フリーランス：0件
2. 契約記者：1件
3. 社員記者：12件
4. 管理職（デスク以上）：4件
5. その他：0件



## 【記者編③】

あなた自身の意には沿わない形で、自殺を報道したことはありますか。

1. ある：2件
2. ない：15件
3. その他：0件





# アンケート結果

---

## 【記者編③ -A1】

「ある」と回答された方にお聞きします。それはどういう報道でしたか。以下の項目の中から選んでください（複数可）。

1. 自分自身は報じる必要がないと考えた事実について、報道した：1件
2. 自分自身は抑制的に報じるべきと考えたが、事実の列挙が詳細になった：1件
3. 自分自身は抑制的に報じるべきと考えたが、表現が過激になった：0件
4. 自分自身は抑制的に報じるべきと考えたが、報道量が増えた：1件
5. その他

## 【記者編③ -A2】

「ある」と回答された方にお聞きします。それはどういう事情によるものでしたか。以下の項目の中から選んでください（複数可）

上司の指示：0件

閲覧回数：0件

広告売上：0件

他のメディアとの競争：0件

編集上の要請：2件

その他：0件

# アンケート結果

---

## 【責任者編⑧】

### その他、自殺報道について、ご意見があればお願いします。

<責任者編>

- ・今後も WHO が作成したガイドラインの理解に努めることを組織内で共有し、真摯に自殺報道に向き合っていく所存です。
- ・自殺の背景には様々な問題があり、昨今のコロナ禍なども大きく影響していると思う。著名人の自殺を報じるのはメディアの必然的な行為であり、それが他の自殺を誘発するという理由で、すべて自粛を求められることには違和感もある。もちろんセンセーショナルに繰り返したり、詳しい手口を伝えることなどは忌むべきだが、自殺の原因や背景などを客観的に深く掘り下げ、他にも共通するような問題の要素を社会に問う報道は今後も必要だと考える。ガイドラインは参考にはするが必要以上に縛られるものではないと考えている。
- ・自殺報道の際には、自殺を防ぐための支援策や相談先の情報を提供するようにしているが、ほかに有効な手段がないか常に考えている。なにかいい提案があれば教えていただきたい。
- ・書かなければいいというものでもないと思います。ケースバイケースで判断が難しい場合もあり、過剰な規制には反対です。
- ・東日本大震災後、ご家族を失ったことなどをきっかけに鬱となり、自死される方が多数いました。せっかく津波から逃れながら、自ら命を絶つ人を減らすことは大きな社会的な課題でしたが、報道するとさらなる自死を生みかねないとの懸念から、十分に報道しきれなかったと反省しています。震災報道として、当事者を登場させず、数字と支援者側だけの報道では、明らかに質量ともに不足していました。
- ・報道側が規制しても自殺はなくなる。社会構造、環境、家庭などもっと大きな原因解決が課題
- ・抑制的という考え方は大切ですが、きちんと取材することが大切ですので、取材の自発的抑制にはならないようにと考えます。こうしたアンケートも立ち止まる良い機会になります。ありがとうございます。

# アンケート結果

---

## 【記者編⑥】

その他、自殺報道について、ご意見があればお願いします。

<記者編>

- ・自殺報道の多くは、一報段階では自殺かどうか明確には分からない状態でスタートするため、国民の知る権利との兼ね合いで、どこまで情報を伝えるべきかという線引きが難しい。自殺であることが明確な場合を想定したガイドライン等を作成してもその範疇に収まらない場合どうするべきか議論を尽くしておく必要性を感じている。また、事件関係者や政治家など死亡時の状況に高いニュース性があるケースなどについても検討が必要ではないか。
- ・個人的な理由の自殺は報道しないが、著名人や事件に関与している場合、報道すべきと考える。
- ・自殺者や取材対象者に配慮するあまり、自殺を選んでも仕方がない状況にあったかのようなまとめ方が目立つ。自殺以外の道があった事実こそ丁寧に報じるべきだと思う。
- ・通常の事件事故として扱う必要はあるが、少しでも自殺を前向きな手段として捉えられないよう引き続き伝え方には慎重に臨みたい。
- ・明らかに自殺報道は自殺を増やすリスクがあるので、その前提にたってメディア側が自主的に対応していく必要がある。厚生労働省のような公権力から報道の在り方について踏み込んだことを言われる現状メディアと権力の関係において大変危険。この件に関して世論は厚労省側にあるとみられるので、よけい公権力から踏み込んだことを言われやすくなる。人の命に係わる問題について業界が自主的にきちんと重大にとらえて自主的に報道の在り方を適切なものにしていく必要があり、もう少し業界側が実効力のある取り組みをして、発すべき。各社がきちんと自殺報道で自社がすること、しないことを明確に打ち出した方がいいと考える。